

精密工学会賞 第5回 (2009年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 長江 昭充 氏

長江昭充氏は1971年に現在のヤマザキマザック（株）に入社し、一貫して工作機械の開発に取り組んで来た。1981年には対話型CNC「マザトロール T-1」を搭載した旋盤の開発に成功した。また同年工作機械部品加工用無人化工場「大口工場 FMS」の開発を、さらに1983年には月産250台のNC旋盤製造工場「美濃加茂製作所 FMS」の開発を成し遂げ、1986年には、これら2件のFMF工場研究開発成果をまとめた『大規模FMSの開発』により工学博士号を取得した。

その後1989年には、旋盤にマシニングセンタの機能を組み込んだCNC旋盤「インテグレックス」の開発に成功した。所謂「旋盤をベースとした複合加工機」を初めて量産化し、CNC工作機械の分野で日本が引き続き世界をリードする立役者の一人となった。

現在同氏は、工作機械の稼動状況、加工状況、機械自身の状況、環境などをセンシング、モニタリングし、解析・思考・判断を行って、最適な加工を目指す機能を盛り込んだインテリジェントマシンの開発の一翼を担っている。

一方、学会、団体等の経歴においても、日本機械学会の生産加工・工作機械部門長、日本工作機械工業会の技術委員会委員長などを歴任しており、精密工学会では支部長などを務めるとともに、精密工学会をはじめとして各種学会の学術講演会における工作機械関連セッションのオーガナイザを勤め、学会活動ならびに産官学連携における工作機械の研究活動の活性化にも大きな役割を果たしてきた。

また、大阪大学、名古屋工業大学等の大学において、企業人ならではの実務経験を背景とした生産システムの講義を行うなど、教育活動も積極的に行い若手技術者の育成に尽力してきた。

以上のように、同氏の30余年に渡る工学的、工業的な貢献は極めて大きい。

1968年 東京大学工学部精密機械工学科卒業

1970年 同大学院修士課程修了

1971年 ヤマザキマザック株式会社入社

1987年 同社取締役

2003年 同社専務取締役技術生産本部長

工学博士